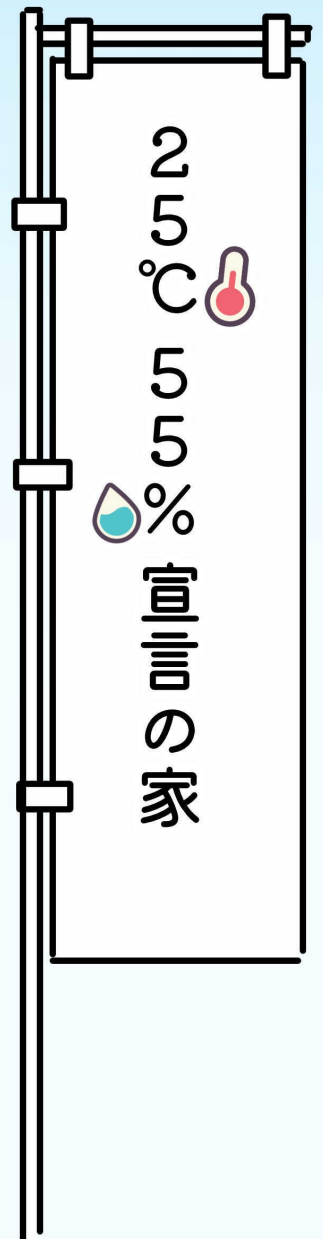
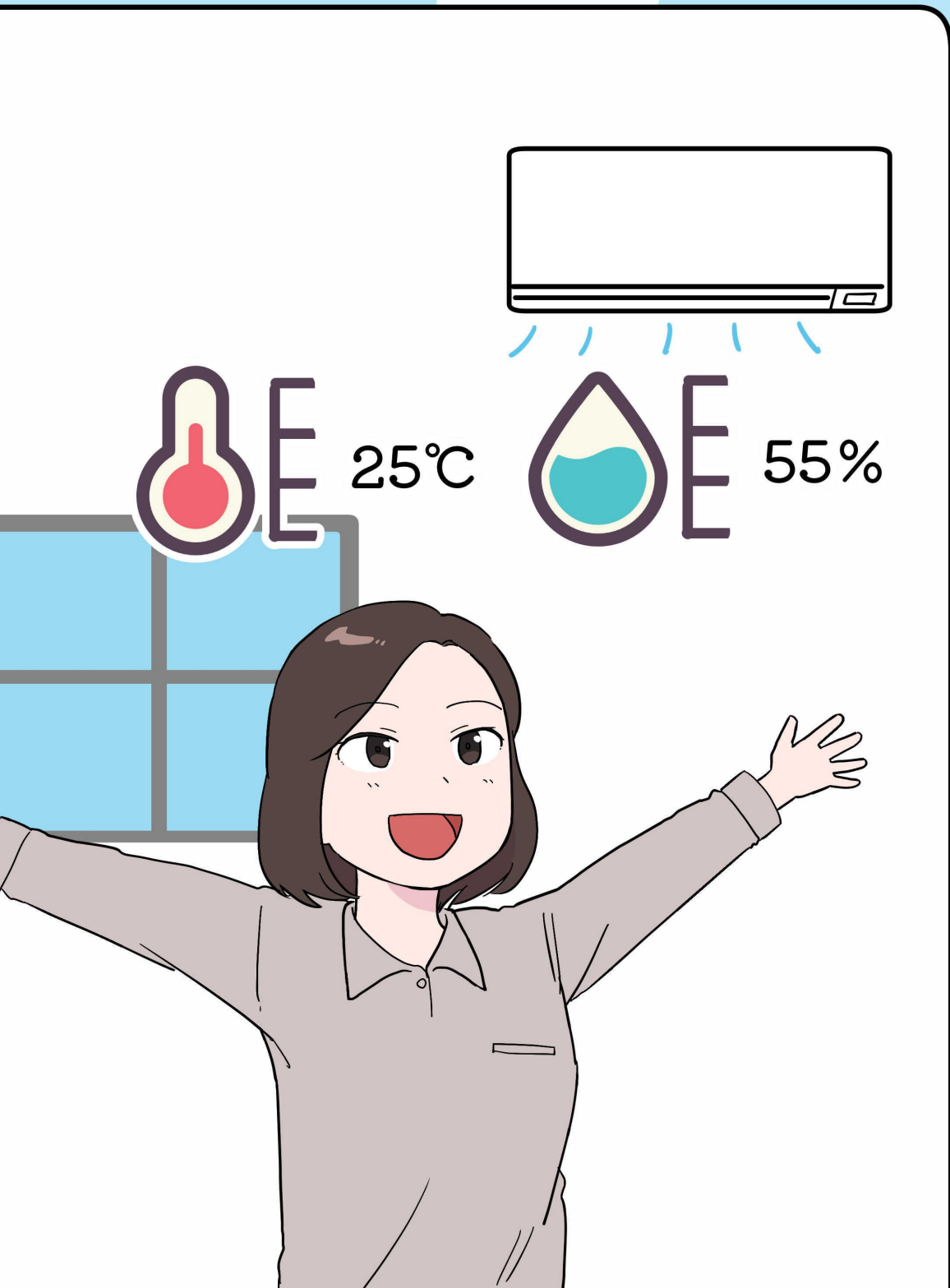


25(室温)55(湿度)宣言の家



高温多湿な沖縄県では、
ほぼ一年を通じて
夏型の結露により
カビが発生します。

コンクリート住宅や
コンクリートブロック造の
建物に留まらず、

木造住宅でもカビや
湿気の問題が
生じています。

一番の要因は
エアコンです。

夏型結露は主に天井裏、
床下や壁の中等、

比較的、
見えないところに
発生します。

RC、CB、木造等のすべての家で
建物自体が太陽で熱せられ
熱橋となり室内へ熱が伝わります。
特に単板の窓だと
かなり熱が伝わります。

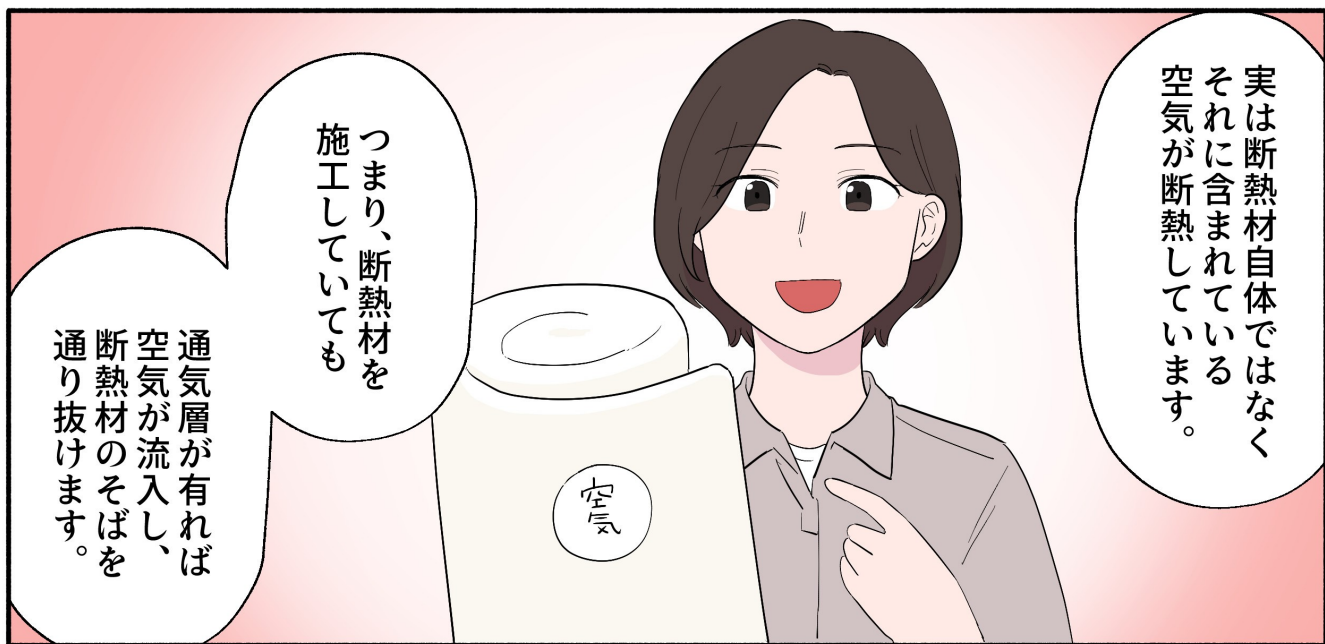
その熱や湿気を帯びた
暖かい空気が天井や
壁の中の配線や
配管の為に設けた
通気層から流れます。

そこにエアコンの
冷気があたり
結露を起こします。



断熱材自体が断熱していると思っ
ている方がほとんどです。

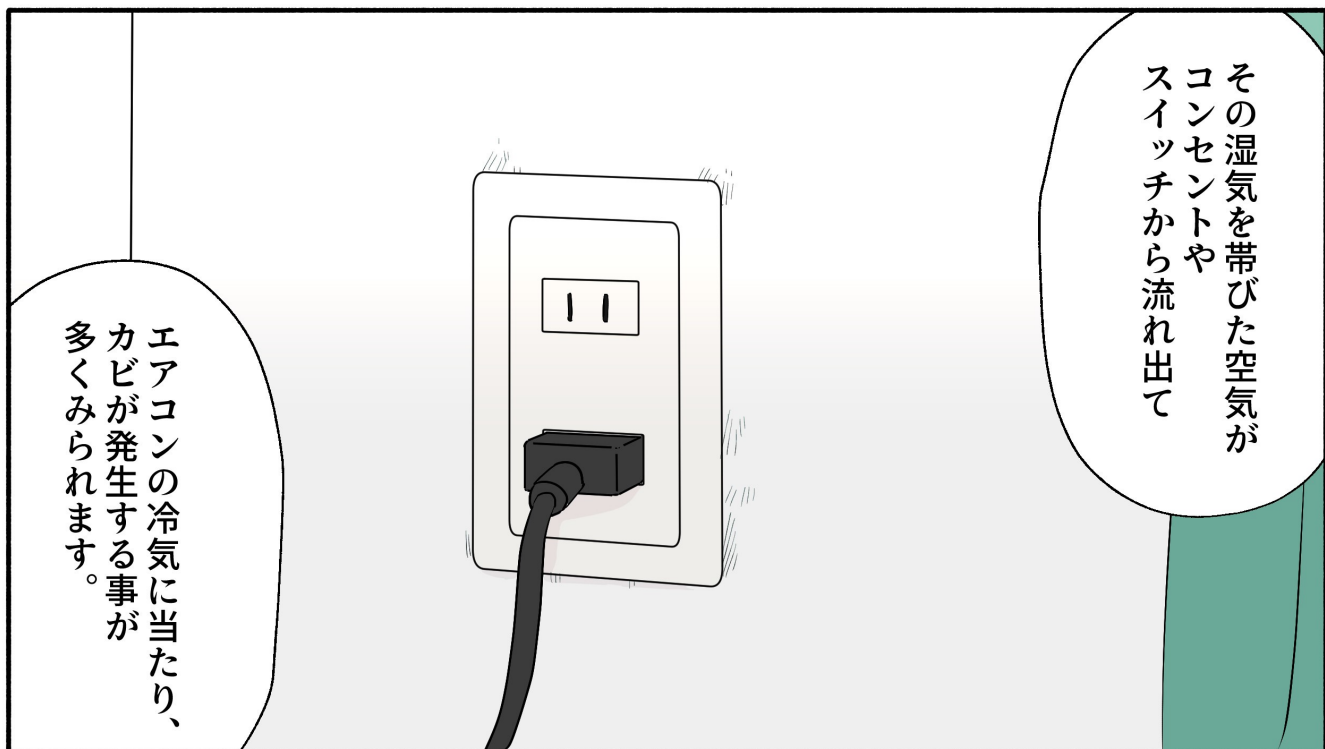
断熱材により熱の伝導は防いでいると思われがちですが、
施工方法によって断熱材の意味を成していないことが多いです。



実は断熱材自体ではなくそれに含まれている空気が断熱しています。

つまり、断熱材を施工していても

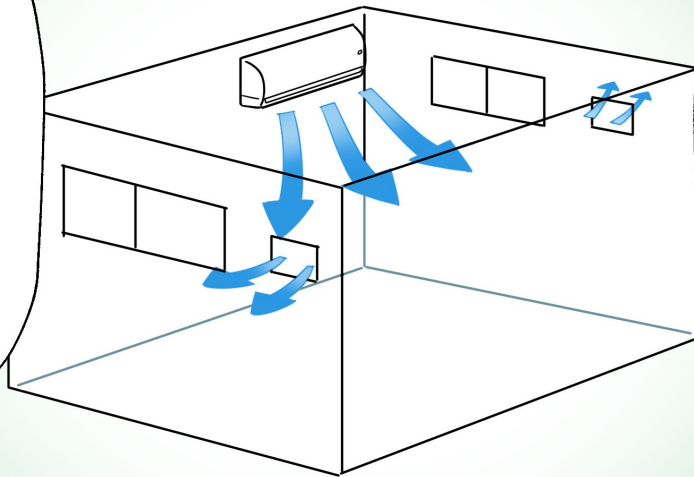
通気層が有れば空気が流入し、断熱材のそばを通り抜けます。



その湿気を帯びた空気がコンセントやスイッチから流れ出て

エアコンの冷気に当たり、カビが発生する事が多くみられます。

2003年の建築基準法の改正によりすべての建築物で24時間換気システムが義務化されました。



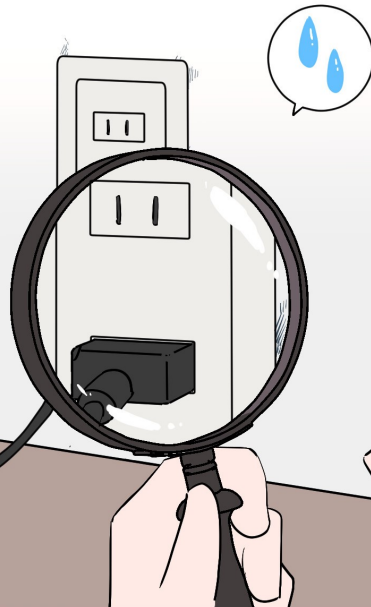
沖縄ではほぼ一年間エアコンをかけていて、24時間換気システムにより

建物の屋内と屋外の気圧を比較したときに内部の気圧が低くなります

空気は気圧の高いところから低い所に流れていき同じ気圧になろうとする原則があります。

それによって湿気を帯びた空気が至る所の穴から入ってきます。

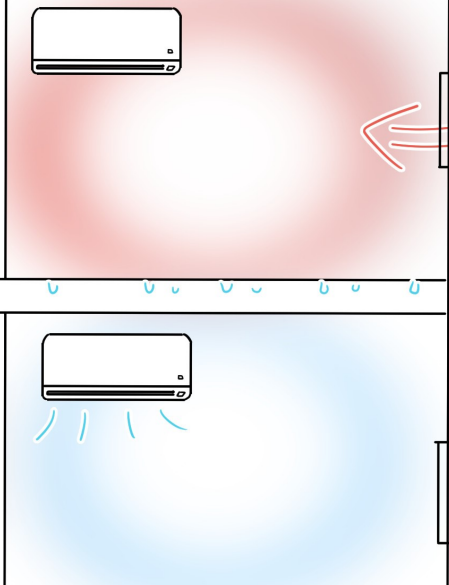
この換気システムも沖縄では結露の原因の一つだと思います。

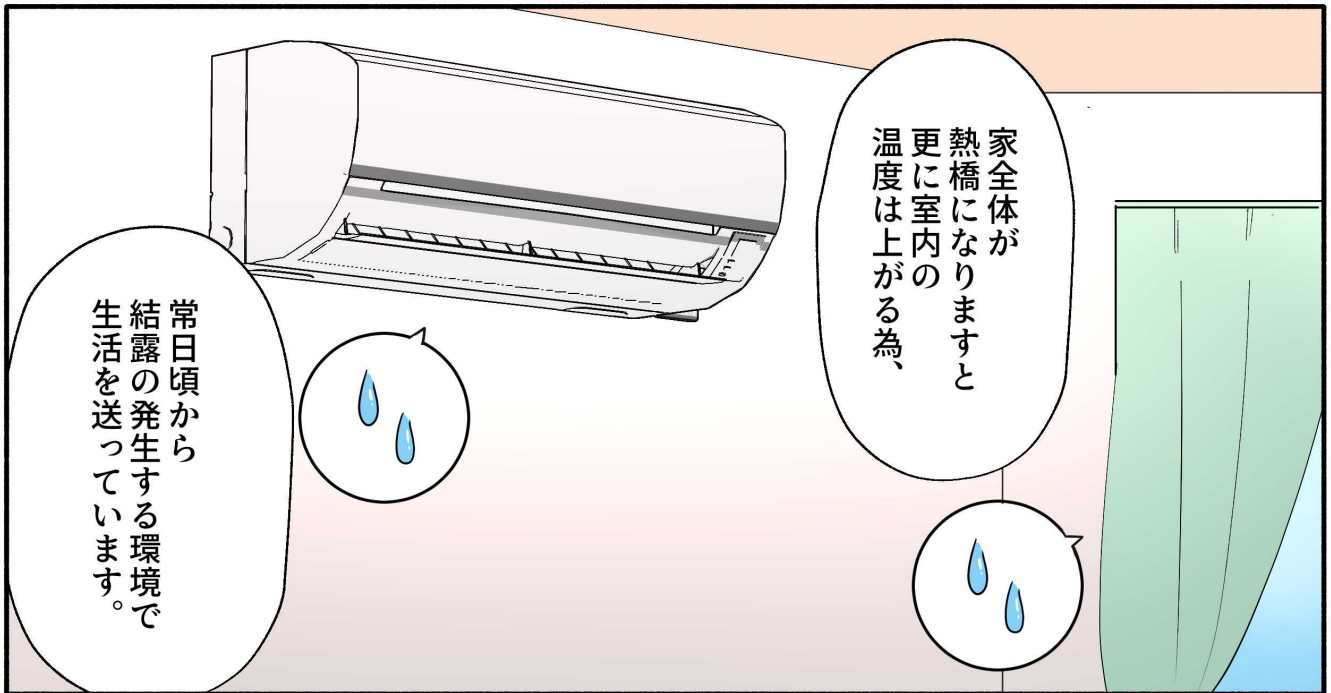
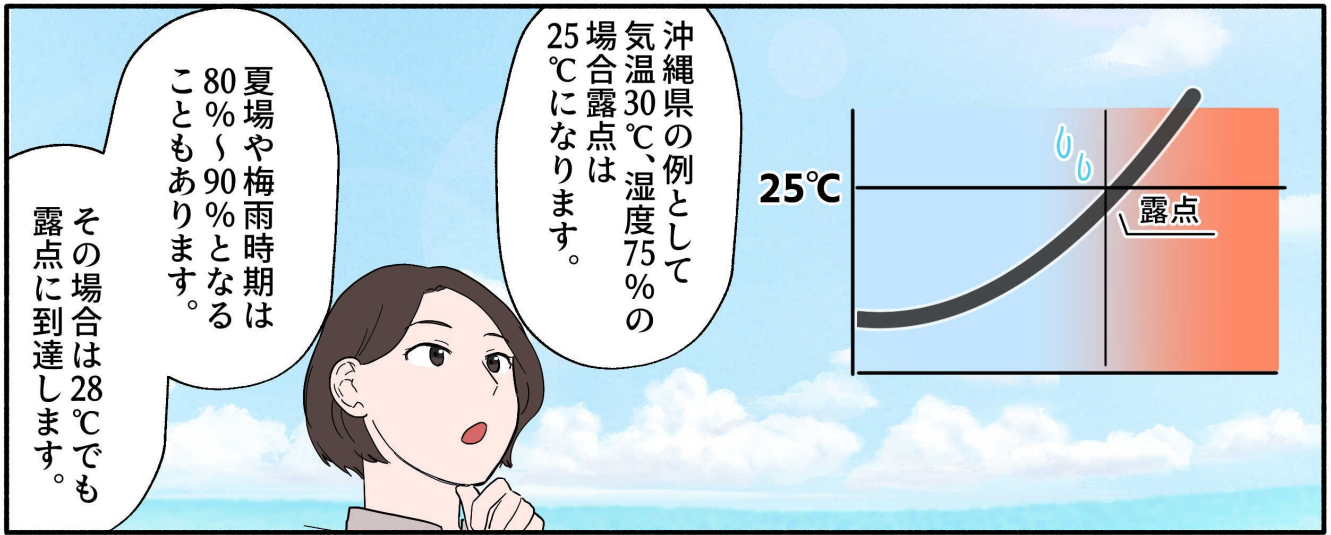


集合住宅では下の階がクーラーを使用していて、

上階の方が窓を開けた状態になっていると上階の床に結露が発生したり、

隣人の方にも同様の事がみられます。



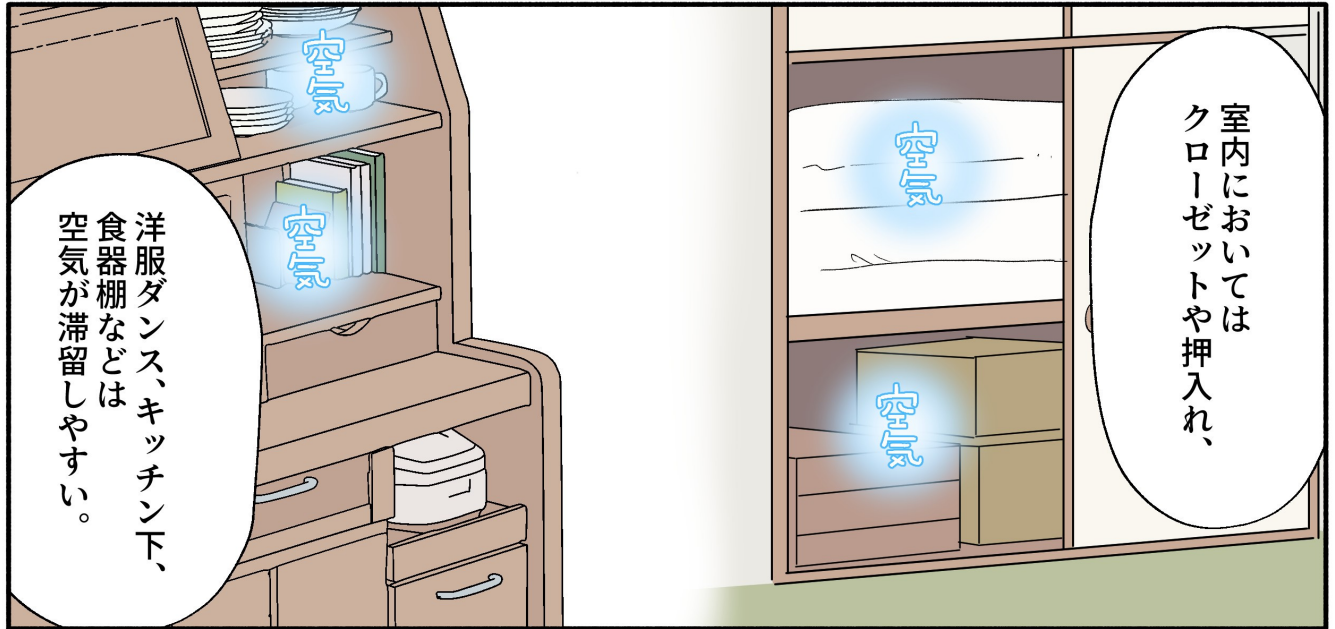




間違っている湿気対策
お風呂に入った後に
換気のためにドアを
開けっ放しにすると、

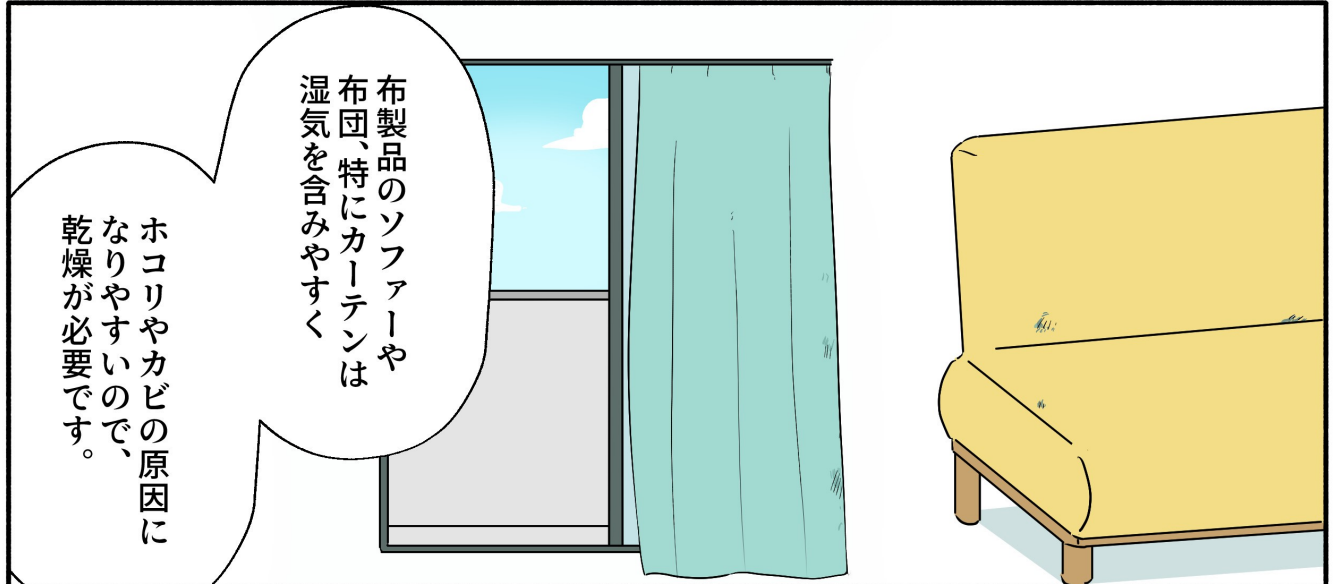
エアコンで冷気があたり
結露してしまいます。

エアコンを付けたままで
換気のために窓を
開けることも要因となります。



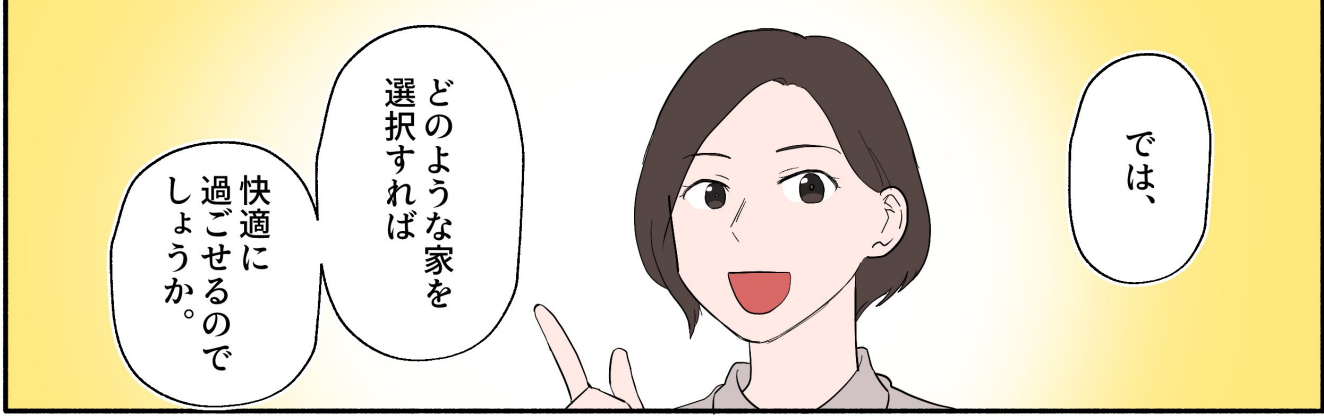
室内においては
クローゼットや押入れ、

洋服ダンス、キッチン下、
食器棚などは
空気が滞留しやすい。



布製品のソファや
布団、特にカーテンは
湿気を含みやすく

ホコリやカビの原因に
なりやすいので、
乾燥が必要です。



では、

どのような家を
選択すれば

快適に
過ごせるので
しょうか。

③外から空気が
進入しにくい。

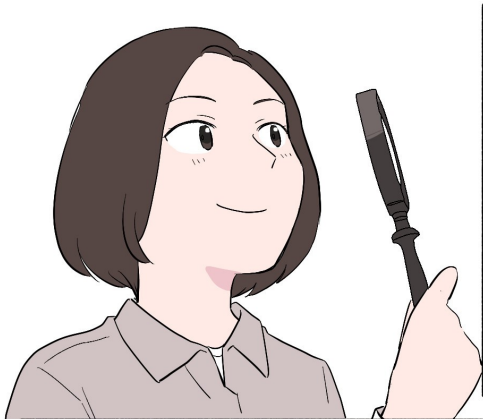
→高気密住宅で空気の出入りを
コントロールしている

②窓から熱が入りにくい。

→樹脂サッシや
Low.Eのペアガラス

①外壁が熱橋
になりにくい。

→外断熱工法・
床、壁、屋に充填断熱



⑤カーテンが要らない
(カビの発生を防ぐ)

④クローゼットや
押し入れが
通気がされている

沖縄県では台風対策や
シロアリ対策が重要視
されていますが、

昨今の住宅メーカーは
様々な方法で既に
対策済みだと思えます。

生活をしながら
外気を入れない事は
不可能ですが、

可能な限り上記の
ことを考えた
家造りを行っています。

EDGE OKINAWA

しかし、沖縄県特有の
湿害については
まだまだこれから
対策が必要です。